

# 夜明け

キリストの御臨在の使徒



# ドーン誌

2025年5月

## 目次

夜明けのハイライト.....	2
もう呪われない.....	2
ダビデの犠牲.....	19
ソロモン、神殿を奉献.....	23
礼拝の復活.....	27
契約の更新.....	31

聖書に沿って読み進めましょう

## もう呪われない

**「あなたがたのために、地は呪われている。苦しい労苦によって、あなたがたは一生の間、その地から食物を食べることになる。」**

**創世記3:17**

神の掟に背いたために、父アダムには死の宣告が下された。しかし、この裁きの第二の側面には、地球と人間の環境にかけられた呪いも含まれている。このことが、人類一族の健康と活力の全体的な低下に大きく寄与し、墓場で終わることになった。

聖書の記録には、この裁きの最初の部分が記されている。「神である主は人を取り、エデンの園に入れ、園を耕し、園の世話をさせられた。しかし、善悪を知る木からは食べてはならない。それを食べると、必ず死ぬからである。」創世記2:15-17

## 臨終

この宣告には、聖書の記録にも明らかにされている重要な側面があり、それはこの問題を適切な観点からとらえるものである。善悪を知る木を食べてはいけないという指示に関連して、神はこう言われた。これは、アダムが罪を犯せば、直ちに死に至る過程が始まるという事実を指し示している。

私たちは、アダムがこの宣告が下されたその日に死んだのではなく、930年間生きたことを知っている。記録には、"アダムは930年生きて、それから死んだ。"とある。(創世記5:5)。神の計算では、一日は千年であり、アダムはその間に死ぬ過程を経験したのである。「しかし、親愛なる友よ、この一つのことを忘れてはならない：主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。"(第2ペテロ3:8)(第2ペテロ3:8)。ですから、アダムは、神の時間の測り方によれば、一日の間に死んだのです。

## 崇られた大地

罪と不従順に対する神の裁きの第二の側面は、大地そのもの、アダムとその子孫が生きていくために食物を生産するのに必要な大地そのものに関わるもの

であった。あなたは妻の言うことを聞き、わたしが『そこから食べてはならない』と命じた木の実を食べた。あなたのために、地はいばらとあざみを生やし、あなたは野の草を食べる。あなたがたはそこから取られたのであるから、地に帰るまで、あなたがたはその汗で食物を食べるのである。創世記3:17-19

## 悲しみの中で

私たちの最初の両親が、死という結末を迎えた寿命の間に経験した悲しみの深さを表現するのは難しいだろう。「悲しみ」という言葉は、心配する、悲しむ、痛むという意味で、母エバに対する神の裁きに関連して初めて使われた。「わたしは、あなたがたの出産の苦しみを非常にきびしくする。あなたの欲望は夫に向けられ、夫はあなたを支配する。」（創世記3:16）。(創世記3:16)。詩篇の作者、私たち誰もが共感できる言葉で説明している：「私たちには70年を与えられている！ある者は80歳まで生きる。しかし、最良の年月でさえ、苦しみと悩みに満ちている。"やがて、それらは消え去り、私たちは飛び去る。詩篇90:10

## ダビデの嘆き

詩篇の作者ダビデは、彼が経験してきた罪、死、呪われた地がもたらす恐ろしい結果を視野に入れた。主よ、怒りのうちに私を叱らず、怒りのうちに私を懲らしめないでください！あなたの矢は私を深く打ち、あなたの打撃は私を押しつぶす。あなたの怒りのゆえに、私の全身は痛み、私の罪のゆえに、私の健康は壊れている。私の罪のために、私の健康は損なわれた。私の愚かな罪のゆえに、私の傷は化膿し、悪臭を放つ。私は前かがみになり、痛みにさいなまれている。一日中、私は悲しみに満ちて歩き回る。猛烈な熱が私の中で燃え上がり、私の健康は壊れている。私は疲れ果て、完全に打ちひしがれている。私のうめき声は苦悩に満ちた心から出る。主よ、あなたは私が何を切望しているかご存じです。詩篇 38:1-9

## 汚染された大地

預言者イザヤは、呪われた大地について語り、罪深い人間がその大地を汚してしまったと語っている。彼はこう書いている！主は地を滅ぼし、広大な荒れ地にされようとしている。主は地表を荒廃させ、民を散らされる。祭司も民も、しもべも主人も、女中

2025年5月

も女主人も、買い手も売り手も、貸し手も借り手も、銀行家も債務者も、だれも免れない。地は完全に空になり、略奪される。主は語られた！地は嘆き、干上がり、土地は衰え、枯れる。地上の最も偉大な人々も衰える。彼らは神の指示をねじ曲げ、神の掟を犯し、神の永遠の契約を破ったからだ。それゆえ、呪いが地上を焼き尽くす。人々はその罪の代価を支払わなければならない。彼らは火によって滅ぼされ、わずかな者だけが生き残る。"イザヤ書24:1-6

## 害虫

聖書の歴史家であり福音書を書いたルカは、将来の出来事を記述する際、"地は衰え、枯れる

"というイエスの言葉を用いた。彼らは特に、ある特定の時期（

）を、地上の大いなる悩みの時と特定し、区別した。（ダニエル12:1）。これは、この "現在の悪の世"の終わりの年に、地上の人々に訪れると予言されていた。（ガラテヤ1:4）。私たちは今、人類の歴史のこの時代に生きており、聖書の預言の中で私たちの時代を特徴づける前代未聞の出来事の証人であると私たちは信じている。ルカはこう書いている。"大きな地震が起こり、多くの土地で飢饉と災いが起

こり、恐ろしいことが起こり、天からの大きな奇跡的なしるしがある”。ルカ21:11

## 男の闘い

歴史を通じて、人類はあらゆる逆境と闘わなければならなかったが、その多くの要因のいくつかは、人類一族の命を早期に失わせ続けている。多くの場合、これは疫病、疫病、疫病に由来するもので、昆虫やげっ歯類など、さまざまな方法で運ばれてきた。人類自身にも、病気やウイルス、さまざまな形の病気が蔓延してきた。また、干ばつ、洪水、凍結などの悪天候によって引き起こされる飢饉や飢餓の犠牲にもなってきた。これらは大きな要因となり、世界の食糧供給に深刻な影響を与えてきた。昆虫や雑草の蔓延により、作物の損失も発生している。これらやその他多くの人類の敵との闘いは終わりがない。

過去1世紀半の間に地球の人口が劇的に増加したため、人間家族が直面する逆境をコントロールすることが難しくなった。かつては農場が小規模であったため、害虫の侵入は限定的であり、コントロールも容易であった。しかしここ数十年で、農地は大規模

化し、害虫や病気、壊滅的な気象現象が何エーカーもの農地に蔓延するようになった。

## 科学コントロール

地球上に住む80億人以上の人々に食料を供給することは、ますます重要になってきており、人間は多くの複雑な問題に対する解決策を必死に見つけようとしている。その代表的な例が害虫駆除である。農薬は多くの種類の昆虫や病気から食用作物を守るために開発され、広く使用されている。また、アダムの時代に持ち込まれ、今もはびこり続けて食料生産を阻害している「いばらやあざみ」を駆除するために、除草剤も使用されている。呪われた大地という神の宣告は、今も続いている。

農薬の使用によって農作物の生産量が増え、多くの場合、農作物の品質が向上した。しかし、農薬は有害な昆虫を殺すために特別に設計された有毒化学物質でもあり、中には人間が口にすることで深刻な問題を引き起こすものもある。畜産においては、抗生物質やホルモン剤などの薬剤が、成長を促進し飼料の消費を抑えるために使用されている。これらの薬剤の残留物は、人間にとっても有害である。したが

って、農薬だけでなく動物用抗生物質やホルモン剤にさらされることによる害の程度は、「摂取すればするほどリスクが高まる」という概念と関連している。

## 現代の課題

課題は、信頼できる高品質の食品供給と、人々を不必要な化学物質への暴露から守る必要性とのバランスをとることである。ヒトが消費する農薬の安全基準値は幅が狭く、当初はヒトが消費しても安全だと考えられていた農薬が、望ましくない影響を及ぼす可能性があることは、過去の経験から明らかである。化学物質「DDT」はそのような歴史的な例のひとつである。

、環境中に残留し、体脂肪に蓄積する性質があるためである。その結果、DDTの使用は米国では1972年に、その他の地域では2004年に禁止された。しかし、アフリカ、アジア、南米の一部ではまだ使用されている。

抗生物質は細菌を殺すための薬だが、成長を促進し、必要な飼料の量を減らすために、畜産にも使われている。これらの薬剤を過剰に使用すると、抗生物

質耐性菌が繁殖する可能性が高まる。食肉製品に残留する抗生物質の量を減らすためには、抗生物質の管理が必要である。

最近の出来事だが、H5N1「鳥インフルエンザ」ウイルスは、過去3年間で養鶏業界を壊滅させた。米国だけでも、ウイルスの蔓延を食い止めようと2022年以降、1億4800万羽の鶏が安楽死させられたと推定されている。ありがたいことに、人間の間で報告された症例はごく少数であり、ウイルスが人から人へと広がることはない。しかし、卵やその他の関連食品が不足し、価格が高騰している。

このように、化学薬品やホルモン剤など、私たちの祖先が聞いたこともないような農業の進歩が開発されたにもかかわらず、長い間続いてきた害虫や雑草、病気との闘いが続いていることがわかる。これは、罪と死の結果として地球という惑星にかけられた呪いが、まだ解けていないことの強い証拠である。

神への不従順のゆえに、大地とそこに住む人々は呪われている。「大地はあなたがたのためにいばらとあざみを生やし、あなたがたは野の草を食べる。あなたがたは、そこから取られたのだから、地に帰る

まで、あなたがたは、その眉の汗によって食物を食べる。創世記3:16,17

## ナチュラルコントロール

科学者の間では、ある種の有用な昆虫や鳥類が、食用作物を荒らす有害な昆虫を駆除するために使われる可能性があるという事実に注意を喚起する声もある。有害な昆虫の侵入を防ぐために、自然な昆虫駆除や有機的な害虫駆除法を用いることは、殺虫剤で殺すよりも望ましいことだという。

自然防除はプラスにもマイナスにも作用する。ほとんどの場合、ある地域に生息する有害な侵入害虫からその地域を守るために、防除が導入される。害虫駆除は、侵入種間の競争を緩和するために導入される。しかし、導入された防除種が必ずしも意図した害虫群のみを対象とするとは限らない。単一の種、あるいは狭い範囲の種に限定されない防除剤は、必ずしも良い生物学的防除剤になるとは限らず、それ自体が侵入種になる可能性もある。このような予期せぬ結果を招いた事例は、過去数十年の間に数多く発生していることはよく知られている。

他のケースでは、より有益であることが証明されている。カマキリは毎日大量の有害昆虫を食い荒らすことで知られている。テントウムシも果樹をよく襲うダニやアブラムシを食べてくれる。寄生虫、捕食者、病原体、競争相手など、天敵のいくつかを作物に導入するだけで、自然の方法を見つけ、利用することができる場合もある。その他の有用な捕食者としては、害虫の個体数を制御することができるクモが挙げられる。

ディルやバジルのように不要な虫を寄せ付けない植物もあれば、蝶のような有用な昆虫を引き寄せる植物もある。病気になった植物は、健康な植物よりも害虫を引き寄せやすい。そのため、有機肥料、マルチ、堆肥で土壌を作り、植物を健康に保つことが重要である。輪作を導入するのも良い方法だ。同じ土地に毎年異なる品種の作物を植えることで、特定の有害な昆虫や雑草が増えるのを防ぐこともできる。

さらなる研究と科学的実験により、生物学的防除は、世界の食用作物生産における将来の害虫蔓延を軽減するのに役立つ可能性がある。生物的防除は今日、より多く利用されるようになっており、多くの農薬や除草剤の使用を減らすことが期待されている。

## 智慧の顕現

その努力の進歩にもかかわらず、人間は有害な昆虫、雑草、害虫、農作物や動物の病気を完全に除去するような防除法や方法を発明することも、開発することもできなかった。

人間の食糧供給がどこで栽培されていようと、その問題はあまりにも広範囲かつ多様である。しかし科学者たちは、不要な種を食べてくれる多くの種類の鳥や昆虫がいなければ、地球はとっくの昔に昆虫や雑草に完全に蹂躪されていたであろうという単純な事実を指摘している。

このように、地球上のすべての肉体の完全な荒廃を許さない、愛に満ちた天の父の偉大な知恵と支配の手が見られる。彼の導きがなければ、すべての肉体はとうの昔に滅んでいただろうし、罪の病に冒され、死に瀕した人類を完成させる望みはもはやなかっただろう。神は人が住むために地球を創造された。ソロモンの言葉にはこうある。"世代は移り、世代は去るが、地は永遠に残る"。(伝道の書1:4)。神は人間に、基本的な物理法則や原理に関するある限られた洞察を与えた。「歴史は繰り返すだけだ。歴史は繰り返すだけだ。太陽の下に真に新しいものはな

い。人々は時々、ここに新しいものがあると言う！  
本当の意味で新しいものなどないのだ。

## 神の力

神の驚くべき力は、呪いや祝福をもたらすために用いられることがある。このことは、イスラエル民族がエジプトに束縛されていた時に示された。イスラエルのパロへの束縛は、人類がサタンの下で罪と死に束縛されていることを象徴している。イスラエルの束縛からの解放は、イエスの贖いの御業によって死の宣告から解放される人間の家族を描いている。ローマ5:18,19、ヘブル9:12,15、テモテ2:5,6

古代イスラエルの場合、神は出エジプト記7章から12章に記されているような災いをエジプトにもたらした。まず、水が血に変わり、カエルが現れた。次に、シラミ、ハエ、そして牛やその他の動物に感染する伝染病であるムレインの災いが起こった。そして、腫物、嵐と暗闇を伴う雹の災いが起こった。すべての災いは神の支配下にあり、それを止めることができるのは神だけであった。この間、神の力はイスラエル民族を救うためにも用いられた。(出エジプト8:22,23; 9:4-

7)。詩篇の作者はまた、イスラエルの民がエジプトでの束縛から解放されたのは、神の力によるものであったことを示す概要説明。詩篇78:44-51

## 呪いを解く

預言者イザヤは、全人類に祝福をもたらす神の将来の計画を予言した。砂漠と干からびた土地は喜び、荒野は喜び、花を咲かせる。荒野は喜び、花を咲かせる。クロッカスのように、花は咲き誇り、大いに喜び、喜び叫ぶ。レバノンの栄光はこれに与えられ、カルメルとシャロンの栄華はこれに与えられる。"彼らは主の栄光、私たちの神の栄華を見る。(イザヤ35:1,2)。この素晴らしい光景を象徴的な言葉で表現したとき、イザヤはこうも書いている！荒れ野には泉が湧き出し、荒れ地には小川が流れる。干からびた地は池となり、水の泉は渴いた地を満たす。かつて砂漠のジャッカルが住んでいた所には、湿地帯の草や葦や藺草が繁茂する。

キリストとその忠実な信奉者たちによる現代が管理するこの未来の時代について、詩篇の作者はこうも言っている。「あなたは大地を世話して水を与え、豊かにし、

肥沃にしてくださいます。神の川は水が豊富で、穀物を豊かに実らせます。あなたは耕された地に雨を降らせ、土塊を溶かし、畝を平らにされる。あなたは雨で大地を柔らかくし、豊かな作物を祝福する。あなたは豊かな収穫でその年を戴き、堅い道さえも豊かさに溢れさせます。荒野の草原は青々とした牧草地となり、丘の斜面は喜びの花を咲かせる。草原は羊の群れで覆われ、谷は穀物の絨毯で覆われる。彼らは皆、喜びのために叫び、歌う。詩篇65:9-13

## 平和の誓約

私たちの愛する天の父は、預言者エゼキエルが記録しているように、より偉大な「ダビデ」であるキリスト・イエスとその忠実な従者たちを通して、人々と「平和の契約」を結ぶ。「わたしは彼らの上にひとりの羊飼、わたしのしもべダビデを置く。彼は彼らを養い、彼らの羊飼いとなる。主であるわたしは彼らの神となり、わたしのしもべダビデはわたしの民の中の王子となる。私、主は語られた！わたしは、わたしの民と平和の契約を結び、この地から危険な動物を追い払う。そうすれば、彼らは最も荒れた場所でも安全に野営し、恐れることなく森の中で眠ることができるようになる。私は

、私の民と、私の聖なる丘の周りの彼らの家を祝福する。そして適切な季節に、私は彼らが必要とするシャワーを送る。祝福の雨が降るだろう。私の民の果樹園や畑は豊作となり、誰もが安全に暮らせるようになる。わたしが彼らの奴隷の鎖を解き、彼らを奴隷にした者たちから彼らを救い出すとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。"エゼキエル34:23-27

## ノー・モア・カース

すべての従順な人類は、完全な惑星地球に回復し、私たちの最初の両親が罪に陥って以来存在した呪いはなくなる。キリストの治世は、世界と人々の問題に対する権力と権威をもって確立される。黙示者ヨハネは、人類一族に対するこの素晴らしい希望を語る神の幻を書き、それを視野に入れた。「天使は私に、神の御座と小羊の御座から、都の大通りの真ん中を流れる、水晶のように澄んだ命の水の川を見せた。その川の両側には、十二の実を結び、毎月実を結ぶ命の木が立っていた。その木の葉は、国々の癒しのためにある。もはや呪いはない。神と小羊の王座（

) が都にあり、そのしもべたちが彼に仕える。"黙示録22:1-3

## ノー・モア・ソロー

私たちの愛する天の父の究極的な計画と目的は、その被造物である人間の従順な者たちを、ここ、回復された完全な地上の家での完全な生活に回復させることである。神の預言者は、彼の時代から長い時の流れを見下ろし、この素晴らしい光景を描写した。主によって身代金を与えられた者たちが帰ってくる。彼らは永遠の喜びを戴き、歌いながらエルサレムに入る。悲しみと嘆きは消え去り、喜びと歓びに満たされる。"イザヤ書51章11節

啓示者ヨハネも神の聖霊に動かされ、こう記した。もう死も、嘆きも、叫びも、痛みもない。御座に着いておられる方が言われた！なぜなら、これらの言葉は信頼に足る真実なものだからである。彼は私に言った。私はアルファであり、オメガであり、始まりであり、終わりである。私はアルファであり、オメガであり、初めであり、終わりである。"渇いた者には、いのちの水の泉から、代価なしに水を与えよう。黙示録21:4-6

## ダビデの犠牲

キー・ヴァース「しかし、ダビデ王はアラウナに答えた。私は、あなたのものを取って、主にささげるつもりはない。私は、何の犠牲も払わない燔祭を献げるつもりはない。」

第一歴代誌21:24

厳選された聖典

第一歴代誌21:14-30

主はダビデについて、彼は自分の心に適う者であると言われた。(サムエル記上13:14、使徒13:22)。これはダビデが一度も罪を犯さなかったからではなく、罪を指摘されたときの謙遜と悔い改めの心のゆえである。

ダビデは自分の心の奥底にある感情を表現してこう書いた。神よ、私の内に清い心をお造りください。(詩篇51:10)。ダビデは、生まれつき自分の心が常

に清いわけではなく、  
、肉の弱さゆえに間違った精神を現しがちであることを認識していた。それにもかかわらず、彼は自分の罪に同情せず、自分がきよめられるように、自分の内に「正しい霊」が新たにされるように神に祈った。

ダビデの悔い改める心の一例は、イスラエルの民の数を数えるなという命令に従わなかったダビデが、軍勢の隊長ヨアブの抗議にもかかわらず、主の御前で罪を犯したときである。その時、主はダビデの予見者ガドに語りかけ、ダビデにこの罪に対する懲らしめとして、3年間の飢饉、3ヶ月間の敵による滅亡、3日間の疫病という3つの選択肢の中から一つを選ぶように指示された。自分の弱さを悟ったダビデは、謙遜のうちに選択を断り、"主の慈しみは偉大である

"と知っているので、主の御手に委ねたいと説明した。サムエル記下24:2-4; 歴代誌上21:1-13

神は三日間の疫病の懲らしめを選ばれ、イスラエルの7万人が短時間のうちに死んだ。それから神は、エルサレムを滅ぼすために天使をエルサレムに遣わされたが、間もなく天使に言った！その時、主の御

使いはエブス人アラウナの脱穀場（  
）のそばに立っていた。"ダビデは神に懇願し、罪を犯したのは自分であって民ではないことを認め、神の懲らしめを自分自身に受けるように求めた。

天使を通して、神はダビデに、「エブス人オルナンの牧場に、主に祭壇を築き」、主にいけにえをささげるよう指示された。オルナンはまず「御使いを見」、次にダビデが到着するのを見た。ダビデは、その脱穀場の「全代価」を支払うよう求めた。それを買った後、彼は「焼き尽くす供え物と平和の供え物をささげ、主を呼び求めた」。主は  
"天から燔祭の祭壇の火によって彼に答えられた"。  
これらの犠牲に基づいて、主は災いを止められた。

ダビデが主に捧げるいけにえを捧げるために、オルナンの脱穀場を贈り物として受け取ったり、それ以下の金額を支払ったりするのではなく、正価で購入することにこだわったことで、ダビデの主への献身の誠意が見事に明らかになった。彼は、自分が犠牲を払うことのない燔祭を主にささげたくないのだと説明した（24節）。（24節）。これは神の民すべてにとって良い教訓である。もし私たちが主の奉仕のために、とにかく必要のないもの、あるいは私たち

、他に使い道のないものだけを捧げるなら、私たちは主に対する真の献身の証拠をほとんど、あるいはまったく示さないことになる。

この記述の最後の注釈として、ダビデが買ったオルナンの脱穀場は、後にソロモンが "主の家" である神殿を建てる場所であった。第二歴代誌3:1

## ソロモン、神殿を奉献

キー・ヴァース「主の栄光の臨在が宮を満たしていたので、祭司たちは主の宮に入ることができなかった。

第二歴代誌7:2

厳選された聖典

第二歴代誌7:1-7,11

ソロモンが建てた神殿は、イエスとその

"小さな群れ

"によって造られた、現在の福音時代に神が建てようとしている、より偉大な霊的神殿を示すものだった。(ルカ12:32)。パウロは、「あなたがたは神の神殿です」と述べている。(1コリント3:16,17; 12:27)。私たちの主イエスは、この天の神殿の「土台」である。

ソロモン神殿の一部として選ばれた文字どおりの石は、神殿の最終的な場所にぴったりと収まるように、前もってカットされ、形が整えられ、磨かれてい

た。そのため、建物を完成させるためにすべての石を組み立てるとき、ハンマーやノミは必要なかった。(列王記上6:1-

7)。このことは、神が今、聖別された者たち一人ひとりをどのように整え、成長させ、証明しておられるかを予見している。人生の試練や困難は、それぞれの石に施されたノミと研磨によって描かれ、キリストのからだの各メンバーが将来の働きのために準備されることを物語っている。

ペテロはこう付け加える。"あなたがたもまた、生きた石のように、聖なる祭司職となるために、霊的な家に建てられ、イエス・キリストによって神に受け入れられる霊的ないけにえをささげようとしているのです"。(1ペテロ2:5-

9)。この天にある霊の神殿は、「小さな群れ」の最後の一人が死に至るまで忠実であると認められるとき、現在の福音時代の終わりに間もなく完成する。黙示録2:10

神殿が完成した後、ソロモンは、キリスト・イエスとその忠実な信者を指し示す契約の箱を神殿に運び込ませた。そして、レビ人、楽師、歌い手たちは、「これらの言葉をもって主を賛美した：主はいつく

しみ深い！主はいつくしみ深く、その忠実な愛はとこしえまでも続く。第二歴代誌5:1-13

そしてソロモンはひざまずき、神に献身の祈りをささげた。(第二歴代誌6:12-42)。彼が祈り終わると、"火が天から下ってきて、燔祭といけにえを焼き尽くした。"これは神が受け入れられたことを示し、"主の栄光が家に満ち溢れた"。イスラエルのすべての民は、火が下って主の栄光が神殿に満ちているのを見て、地に伏し拝み、主を賛美した！主の忠実な愛はとこしえまでも続く。"第二歴代誌7:1-3

ソロモンの神殿は "すべての国民のための祈りの家"となるはずだった。(マルコ11:17、イザヤ56:7)。これは、メシヤ時代に霊的な神殿が完成し、栄光を受けた後、すべての国々が神に近づき始めることを示している。そのためには、この霊の神殿に近づく必要がある。すべての被造物は、神がご自分の子どもたちが本当は誰であることを明らかにされる、その将来の日を待ち望んでいるのです。"とパウロは書いている。ローマ8:19

そして全人類は、完成した霊的神殿（キリスト・イエス、「体である教会のかしら」、完成した教会、「花嫁」クラス）を通して、礼拝のために主に近づくよう招かれる。（黙示録22:17、コロサイ1:18）。キリスト"のクラスを通して、人類は御父に近づき、そのメッセージを聞いて従う者は皆、喜ぶ。その時、「大いなる喜びの福音」がすべての人々にもたらされるのである。ルカ2:10

## 礼拝の復活

キー・ヴァース"主の宮の土台が築かれたので、民はみな大声をあげて主をほめたたえた。"

エズラ記3:11

厳選された聖典

エズラ記3:1-6,10-13

エズラ記に記されている出来事は、イスラエルの地が荒廃し、イスラエル人がバビロンに捕囚された70年の終わりに起こった。その頃、ペルシャ王キュロスは、神が彼に地上のすべての王国を与え、"エルサレムに神殿を建てる

"ように命じられたと宣言した。その結果、キュロスはユダヤ人捕囚がイスラエルに帰還し、"イスラエルの神、主の神殿を再建する

"ことを許可する布告を出した。エズラ記1:1-3

帰還したユダヤ人の最初の仕事は、モーセの律法に書かれているように、燔祭をささげる祭壇を築くことだった。帰還2年目には、「神殿の基礎（

)」が建設された。主はいつくしみ深く、その慈しみはイスラエルに対してとこしえに続くからである。...主の家の土台が築かれたからである」。エズラ記3:2-6,8-11

喜びの声もあれば、涙を流す声もある。ある者は喜び、ある者は泣いた。時をさかのぼり、ソロモンの壮大な神殿を心に思い浮かべた人々は、それに比べて現在の神殿のちっぽけさを思い、涙を流した。(12,13節)。同じように、今日、主に従う者たちの中にも、未来に向かって喜ぶべきなのに、過去を懐かしんで泣いたり、打ちひしがれたりする者がいるかもしれない。パウロの勧めは、"過去を忘れ、前途にあるものを待ち望みなさい

"というものだ。(ピリピ3:13)。私たちは一日一日、自分のためだけでなく、全人類のために、すべての望みの実現に一日一日近づいていることを心に留めよう。

私たちは、過去の罪や欠点から学んだ教訓を決して忘れてはならない。"主の懲らしめ

"や、そのような経験によって正しく "鍛えられる"ように努力することもその一つである。(ヘブル12:5-

11) 。というのも、「父の前におられる私たちの弁護者は、私たちの罪のために個人的な贖いをしてくださった義人イエス・キリストです。(第1ヨハネ2:1,2; 1:7-10) 。私たちは、"神の天の召しという賞を勝ち取るために、目標を追い求め続けなければなりません。"ピリピ3:14

ある意味で、エズラ記に記されているこの場面は、ハルマゲドンが終わって間もなく世界で起こる状況や出来事を示しているのかもしれない。その時、神への信仰を持つ少数の人々が神の方を向き、地上の新しい状況や取り決めを喜んで受け入れるだろう。やがて、昔のイスラエルが霊的な神殿を通して主に近づいたように、全人類が神に近づくようになる。黙示録21:1-4

地上の人類は、天の父の大いなるいつくしみ、あわれみ、愛を賛美し、感謝する。(詩篇136:1) 。「終末の日には、主の家の山はすべての中で最も高く、地上で最も重要な場所になる。それは他の丘よりも高くなり、世界中から人々が礼拝のためにそこに流れてくる。

、多くの国から人々がやって来て言う。『さあ、主

の山、ヤコブの神の家に登ろう。そこで主は私たちにその道を教え、私たちはその道を歩む。主の教えはシオンから、主のことばはエルサレムから出るからである」。イザヤ書2:2-4

## 契約の更新

キー・ヴァース"私たちの神の神殿をおろそかにしないことを共に約束します"

-ネヘミヤ10:39

選ばれた聖句ネヘミヤ記10:28-39

ペルシャ王アルタクセルクセスは、その治世の7年目に、バビロンに捕らえられていたイスラエル人は、ユダヤ人の律法学者であり祭司であったエズラとともにエルサレムに自由に行くことができるという命令を下した。さらにアルタクセルクセスは、イスラエルの神へのいけにえに必要な供え物を買うため、また神の家に必要なものを調達するために、銀と金をイスラエル人に与えるように命じた。エズラ記7:1-27

それから13年後、エズラと共にエルサレムに向かったユダヤ人の何人がバビロンに戻った。彼らは、王の信頼厚い杯の運び手であったユダヤ人のネヘミヤに、エルサレムの惨状を伝えた。この報告を聞き

て、ネヘミヤは主に祈った。彼は、イスラエルの罪  
(  
)と欠点を告白し、エルサレムの再建のためにエル  
サレムに派遣されるよう求める王の前で、神が彼に  
憐れみを与えてくださるよう願った。神の恵みのお  
かげで、アルタクセルクセスはネヘミヤの願いを認  
めた。ネヘミヤ記1章と2章

ネヘミヤが最初に行った仕事は、エルサレムの城壁  
の再建だった。(3-  
6章)。その後、エズラは、神がモーセに与えた律  
法を男女の会衆に読み聞かせるよう求められた。レ  
ビ人は律法を "はっきりと "人々に説明し、皆が  
"理解 "できるようにした。ネヘミヤ8:1-8

「民はみな、律法の言葉を聞いて涙を流し、自分た  
ちが神に従わなかったために、神の懲らしめを受け  
たことを悟った。そこで、ネヘミヤ、エズラ、レビ  
人は民に言った：「今日は、あなたがたの神、主に  
とって聖なる日である。嘆いたり、泣いたりしては  
ならない。...  
"主の喜びは、あなたがたの力である。"- 9、10節

この後、民は主を礼拝し、自分たちの罪を告白し、イスラエルの歴史を通しての過去の罪を語り出した。(ネヘミヤ9:1-

37)。彼らは神と「確かな契約を結ぶ」ことを誓い、それを書き、封印した。(38節)。彼らはまた、「

すべての命令、規則、定めに注意深く従い」、主のためのすべてのささげものに貢献し、自分たちの神の「家をおろそかにしない」ことを約束した。ネヘミヤ10:28-39

ネヘミヤ記の第10章に記されているこの光景は、神の王国の地上段階において起こることに似ているかもしれない。その時、人類は敵の地、すなわち大敵である死の地から帰還する。神は預言者エレミヤを通してこう言われた：「わたしは彼らの嘆きを喜びに変え、悲しみに代えて慰めと喜びを与える：主は宣言される、あなたの働きは報われる。彼らは敵の国から帰る。"エレミヤ31:13,16; 1コリント15:26

その時、神はイスラエルと "新しい契約"を結ばれる。主は言われる、"わたしがイスラエルとユダの人々と新しい契約を結ぶ日が来る。この契約は、わたしが彼らの先祖と結んだ契約のようなも

のではない。夫が妻を愛するように、わたしは彼らを愛したが、彼らはその契約を破った、と主は言われる。しかし、これは、  
、その日の後に私がイスラエルの民と結ぶ新しい契約である、と主は言われる。わたしは、わたしの命令を彼らの奥深くに置き、彼らの心に書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。彼らは隣人に教える必要はなく、また親族に教える必要もない。わたしは彼らの悪を赦し、彼らの罪を再び思い出すことはない。(エレミヤ31:31-34)。残り的人类が墓から甦るとき、彼らもまた、この契約に基づいて主のもとに戻る機会が与えられる。イザヤ56:6-8; 2:2-4